

見 地域に溶け込み、地域とともに歩み続ける高等学校としてふさわしい施設計画の考え方

学校の外から校内の様子、先生や生徒の顔が見えることは、保護者や地域の人に安心感を与えます。そして、生徒の成長やその成果を学校が発信し地域に見てもらうことで、より地域と学校の信頼関係を深めます。地域に「見える学校」、地域に「見せる学校」、2つのキーワードで、1号棟が学校全体の顔としてふさわしい姿を創出します。

見える学校

透過性

既存校舎群を接続している渡り廊下上のメイン動線を正門まで貫き、1号棟を通り抜ける**メモリアルゲート**を設けます。正門から中庭まで見通し、生徒の登下校や来訪者を迎え入れながら、モニュメント「**未来心**」のこころを校舎の奥へ届めます。

拡張性

中庭を囲うように1号棟を配置します。将来にわたり、世羅高等学校のキャンパス全体が整備されることを考慮し、回遊性を生み出す**将来動線**を創出します。

防犯性

地域から見通し、学内の見通しが良いことは「**見えることによる防犯対策**」となります。1階事務室は正門、メモリアルゲート、集いの広場を見渡し、地域に開放したエリアを目視できます。2階の職員室は正門を見下ろし、グラウンドの様子も確認することができます。

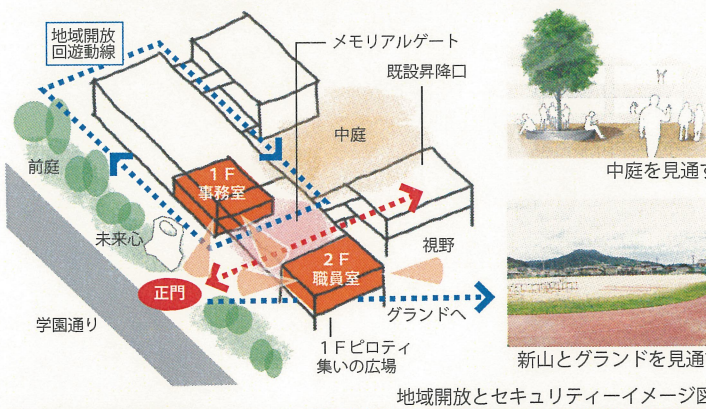
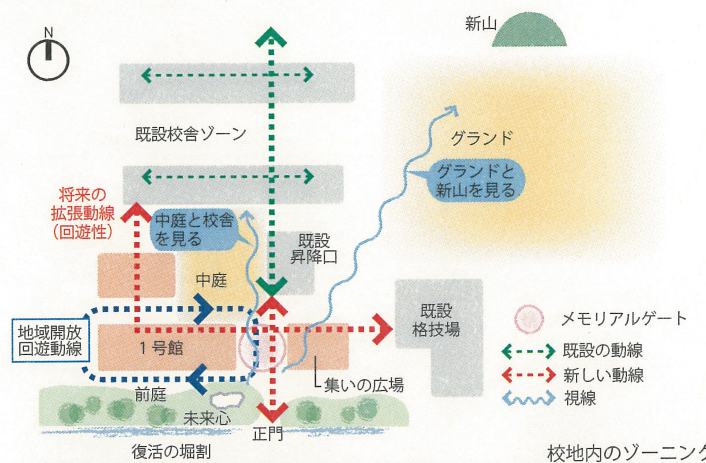
見せる学校

地域との共有空間

エントランス機能を備えた**メモリアルゲート**に数々の優勝旗やトロフィーを展示し、地域へ開放します。これから増えるものも展示できるよう、十分なスペースを確保します。さらに、現在ある「**未来心**」のモニュメントから、前庭の記念碑や記念樹、中庭にかけて回遊動線を創出し、地域との共有空間を提案します。

地域との交流空間

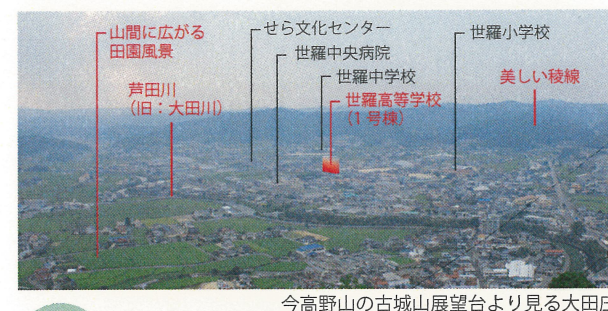
地域との交流を図る**集いの広場**は、専門科の実習成果や地域と共に開発した商品などを展示し、地域へアピールする場所であると共に、学校の中だけでは学べない、社会活動の場になります。第6次産業のネットワークに参加する世羅高等学校の特色を活かし、朝市や授業で育てた草花を販売するなど地域産業の活性化と交流を図る広場をつくります。



場所の固有性を目指して

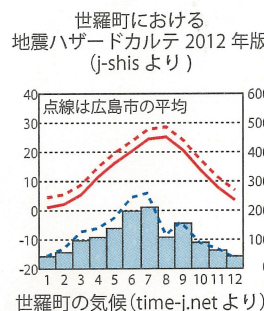
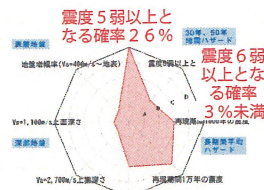
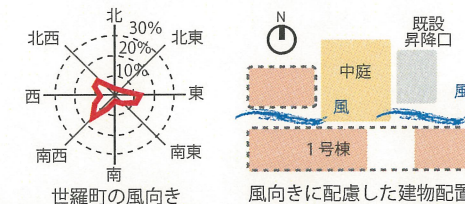
世羅町の風景

目の前に広がる風景を成り立たせる「つながり」を、自然、コミュニティ、産業、歴史的文化などから読み取り、ここにしかない世羅の学校をつくりたい。世羅にある固有要素を建物の造形に取り込みながら、**日常的に生徒と町の人がつながる**、広場や散策・展示エリアを配置し、この場所に定着させます。良きものを未来につなぎ、これからの人材やまちづくり新しい価値を生み出す要に世羅高等学校を位置づけます。



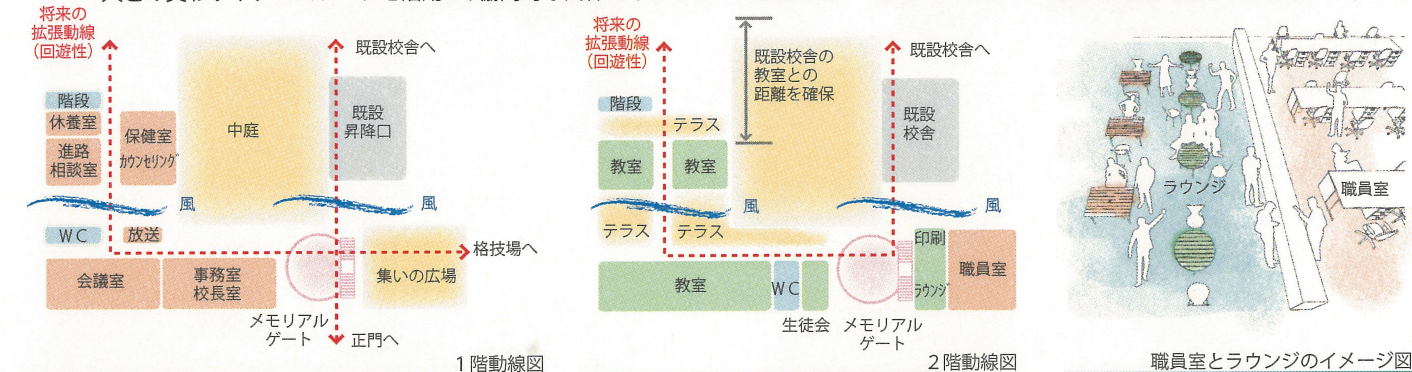
地域性と自然環境に配慮した計画

- 世羅町の**自然特性**に沿った設備、構造計画を行います。
- 風：世羅町では東西に風が流れ、校内に風を通す道をつくりたい。
- 採光：世羅町の緯度から日影シミュレーションを行い、底の出や教室への自然採光を検討。LEDや人感センサーの採用により照明負荷の少ない建物とします。
- 熱：朝夕の気温差が大きく、断熱材への配慮や結露防止となる換気設備やガラスの検討を行います。
- 水：節水型便器、雨水利用の検討を行います。



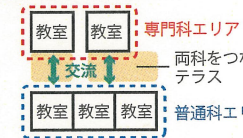
交 生徒が交流を通じて、お互いを高めあえる施設づくりの考え方

駅伝から学ぶチームプレーの大切さ、第6次産業の連携体制から学ぶ協力することの底力、先生が生徒の能力を引き出すサポート体制など、人と人の交わりやチームワークを活用し、協同的な関係の中から互いに理解し合い、生徒一人ひとりの個性や能力を高める空間をつくりたい。



環境の分節化

普通科と専門科が利用することを想定し、ホームベースとなる教室を、テラスを挟み分節化します。枝分かれした環境は、各教育課程の学びに集中することができ、それぞれに成長発展していきます。



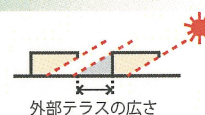
学科交流

普通科と専門科の間にある**テラス**では、教室を超えた両科の交流を促します。休憩時間に菜園を取囲んだおしゃべり、食事を一緒にとったり、クラブ活動へ行く待ち合わせ場所に利用できます。違う科と交流することは、考えの固定化を回避し、コミュニケーション能力の向上につながります。



自然を取り込む

分節した教室の間にあるテラスは、教室に南側からの自然採光を確保します。また東西の風が校内を吹き抜け、自然の心地良さを体感できます。

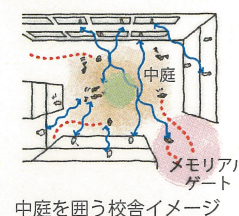


学びのサポート

職員室は、既存校舎と1号棟の教室からアクセスしやすい2階に配置し、生徒が訪れやすくします。先生と生徒がコミュニケーションをとりやすいよう、職員室に**ラウンジ**を設け、生徒としっかり会話のできる環境をつくりたい。授業の質に求める生徒、より深く学びたいと思う生徒の向上心を育み、先生と生徒の信頼関係を深めます。

視線の交錯

既存校舎の間のできる空間を中庭として整備し、文化祭や演奏会など**学年を超えた活動**に利用します。中庭を介して四方から視線が行き来し、人と目の合いやすい環境は、挨拶などのコミュニケーションを増やします。中央には人を集めるシンボルツリーを設置し、生徒の思い出に深く残る中庭の風景をつくりたい。



感化と影響

クラブ活動の優勝旗、トロフィーや賞状は日常動線にある**メモリアルゲート**に飾ります。ここを通るたびに、友人や仲間、先輩達の活躍に刺激を受け、生徒一人ひとりが上を目指し挑戦しようという意欲を高めます。



地域が育てる

集いの広場では天候に左右されないピロティの下で、地域の人と様々なイベントを開催します。生徒の展示や販売と合わせ、ワークショップ、プレゼンテーション、ディベート演習など、社会の中で問題を解決する能力を育成します。まちの人と、地元産業や地域の課題を共有し、共に考えることは、ふるさとへの愛着を育てます。

